

びわこ学院大学 令和七年度 学校推薦型選抜（公募推薦）「教養問題」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ことばはコミュニケーションの手段である。コミュニケーションには、話を通じる約束が必要である。それが、ところと人種によって異なるのは、ことばが各国語、地方語によって異なっているのと表裏をなすことである。論理がことばの内的構造のルールであるとすれば、やはり、人種、国、地方によって違うのが、自然であり当然であって、(a)フヘンの論理を考えるのは、非現実的であることになる。

論理についてわれわれ日本人は三つの次元で考えることができる。

ひとつは論理学で問題にする論理である。日本人は、そういう論理のあることを知識としてもはっきりしないから、日常、意識するのは例外的である。形式論理といってきらい傾向もある。

もうひとつは日本語に即した論理。これは日本語を使っているとき、ことばに敏感な人はときに意識する程度である。

この硬軟二つの論理の中間に、第三の論理ともいうべきものが考えられる。外国語を日本語に移そうとするときに感じられる違和に基づくもので、比較文化の入口になるものである。そして、そこから、日本語は論理的でないという命題も引き出される。

これまで日本人はそれに関して無関心であったように思われる。

日常のことばにおいて漠然と論理と考えられているのは、話の筋道である。この筋道がしつかりはつきりしていないと、話が通じにくく、誤解を(b)マネきやすい。つまり、「線」的なものである。線は、曲がったり、折れたりせず、まっすぐに一直線であるのが、明快でのもまいしい、とされる。

ことばの送り手は、線のようなことばを並べ、つなげていく。それを受け手がたどって意味をとることになる。

その送り手と受け手が、心理的に近接、親密であるとき、形式の整った線の論理が情報過多と感じられるようになる。わかり切った、見当のつく部分を切りすても伝達が可能になるだけではない。線がうるさくなり、部分的に省略、欠落させる。それが表現を引き締め、密度のあるコミュニケーションとして歓迎されるようになる。そこで線の部分的風化がおこる。

普通の線の筋道がこうして、だんだん短くなり、さらに、退化すると、点になる。線の論理がいゆる論理であるが、身近な同士においては、点的論理が通じ合い、おもしろくなってくる。

人と人との心理的距離が大きければ、用いられることばは、つよく線的な性格をおびる必要がある。典型的なケースは法律や法廷のことばであって、ことばはしつかりした線の筋道であるのが好ましい。線が切れたり、曲がったりしては、重大な誤解、混乱をおこすおそれがある。(1) 『水ももらさぬ』論理が求められる。

欧米語は、送り手と受け手が大きく離れている点で、特異なもので、法律の用語に通じるところがある。日本人が母国語では意識しなかった論理が気になったのはそのためである。もともと日本人は、ひどく立場の異なった人間の間での、コミュニケーションを考えることが(c)稀であつたから、固い論理を考える余地がなかった。

家族の間で交わされることばは、法律用語とは大きく性格を異にする。法律のことばでは一から十をのべるのに、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十すべての数をおさなくてはならない。それに引きかえ、親しいものの間では、すべての点をたしかめるようなことばは、うるさく、わずらわしく感じられるのである。一、二とくれば、三、四とつづくだろうことを受け手は予想する。それをはつきり三、四とおさえると、わかり切ったことを言わないでほしいという気持を受け手ももつだろう。三、四を飛ばして五、六とし、そこでまた飛んで九、十に達する。それが省略と感じられないようになってるのが普通である。

家族は、もともと親密な関係にある。形式的に整ったことばを口にすれば、おかしいと思われる。一、二とんで五、六とんで九、十といった省略でもなお、密にすぎる。一から十までと言えたいコト足りるのである。一から十でも、わかり切っていると感じるもの同士の間では、モノゴトをはつきり明示しないで、『あれ、どうする』と言うだけで相手ははつきりしたメッセージであると思うのである。

つまり、論理は、人間関係によって、密疎を異にする、ということである。人間関係の親密度が高まれば高まるほど、形式的論理の密度はAになる。ある時点において、Bとしての論理が風化して、Cに近づくと考えられる。

点的表現は点的論理を生む。それが線の論理にない、あたたかさ、含み、おもしろさをもつことが発見されると、省略の文化が生まれる。

D は世界最小の詩と言ってよいであろうが、この点的論理なくしては存在し得ないことははっきりしている。十七音の小さな表現で、情感を伝えることができるのは、作者の力だけではない。受け手が、その点を結び、あるいは関係づけて、おのずからの理解を成立させるはたらきがないと、成立しない。

線の論理は切れ目がないのが当然とされるから、その線をたどっていけば、脱線ということは無い。脱線すれば、受け手の責任であるとして責められる。線の論理の表現には正解があり、誤解がある。

それに対して、点的論理では、いわば、散乱し、切れている。筋道などあるうわけがない。したがって、いわゆる正解は存在しない。

点的論理によって支配されていることは、表現は、必然的な論理、直結関係による意味とは違った **E** 的意味をもっている。点的論理による表現は、連続していないが、それを結び合わせて複雑な図形のような意味を結ぶことができる。そうして切れているが、つながりをもつことのできる、非連続の連続が可能になる。線の論理では考えることもできない。

線の論理の表現には、正解が存在する。筋道を外れたら誤りであり、不可である。それに対して、点的表現では意味の半ばは、受け手に委ねられている。散乱しているように見える点と点の結合は、受け手の才覚次第である。十人十色の意味化があつておかしくない。入学試験の問題に俳句の出ることはないわけだ。

線の論理の社会である欧米において、近年、俳句に対する関心が高まり、一部では、俳句もどきではあるが、ハイク・ポエムを作る人まであらわれているのは、興味ある現象である。欧米の文化が、点的論理の美学をそれとも知らず、心ひかれるようになっていると解することができる。

(外山滋比古『聴覚思考』中央公論新社)

問一 傍線部 (a) 〽 (c) のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- (a) フヘン (b) マネき (c) 稀

問二 傍線部 (I) 「『水ももらさぬ』論理」について、次の (I)・(II) の各問いに答えなさい。

- (I) 「水ももらさぬ」の言葉の意味を答えなさい。
(II) 「水ももらさぬ論理」は線の論理か点的論理かを答えなさい。

問三 **A**・**B**・**C** に当てはまる漢字一字を文中より抜き出さない。

問四 **D**・**E** に当てはまる二字の言葉を文中より抜き出さない。

問五 本文の内容に合致するものを次より一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、点的論理よりも線の論理の方が、話の筋道がわかりやすく、文学作品においても高く評価される。
イ、点的論理を理解できない人は、ものの情感が理解できず、人間関係も希薄である。
ウ、日本人は、日本語の論理について深く関心を持たなかったことにより、論理的でないと批判される。
エ、線の論理が改善された論理が点的論理であり、より優れた論理と考えられている。
オ、親密な関係であれば、詳しいことまで説明する必要がないというのが日本人の論理の特徴である。

正答例 & 解説

2025 年度 学校推薦型選抜（公募推薦）【国語】

正答例	問一	a 普遍 b 招 c まれ		問	配点
	問二	I 付け入るスキがなく見事な様子 II 線的論理		1	各 1 点 × 3
	問三	A 疎 B 線 C 点		2	各 2 点 × 2
	問四	D 俳句 E 情感		3	各 2 点 × 3
	問五	オ		4	各 2 点 × 2
				5	3 点
					合計 20 点



大学受験のエキスパート！
が詳しく解説！

攻略ポイント

全体で評論の読解問題が1題で、設問数が5問。設問内容は、漢字問題、語句の意味を答える問題、内容説明の問題、空欄補充問題、抜き出し問題、内容合致の問題。全体的な難易度は高校基礎から標準レベルで、設問は基礎的な学力を問うものであり、難問レベルのものはない。漢字の読み、抜き出し、内容説明の問題を含む記述式で出題されている。文章は比較的読み取りやすい内容であり、2800 字程度で標準的な文量である。設問については、文章内容の正確な理解を問うものである。まずは学校で学習する内容を理解して、丁寧に文章を読み、設問に対して正確に解くことを身につけよう。そのうえで、練習問題やびわこ学院大学の過去問題を解いて、しっかりと準備しよう。過去問題は必ず時間をはかり、2回以上解いて、読むスピードや解くスピードといった時間配分を確認しておこう。

問二

（I）は、語句の意味を答える問題。辞書の意味をふまえて解答しよう。そのためには、語彙力を強化する必要がある。おぼえていれば得点できるので、語彙力の問題集などを使って日ごろから計画的に取り組んでおこう。

（II）は、本文で対比的に用いられているもののうち、傍線部はどちらにあてはまるかを答える問題。必ず本文の内容をふまえて判断しよう。傍線部を含む段落では「つよく線的な性格をおびる」論理について述べられている。また、直前文をふまえると「線が切れたり、曲がったりして」いる場合に求められる論理のことであるから、「線的論理」が正解となる。

問三

空欄補充問題では、前後のつながりを確認して判断しよう。段落冒頭の「つまり」に着目すれば、空欄A～Cの部分で前段落の内容をまとめていることに気づく。人間関係の親密度が高まる場合の説明が求められているので、空欄Bと空欄Cは決めやすい。空欄Aについては、直前文にある「蜜疎」という対義の意味を用いた熟語を踏まえる必要がある。前段落の「モノゴトをはっきり明示しないで……相手ははっきりしたメッセージであると思う」という内容をふまえると、形式理論の密度は「疎」になると判断できる。このように複数の空欄補充が問われる問題では、決めやすい空欄から決めていこう。

問四

まず傍線部を含む一文を確認しよう。空欄Dは直後の「世界最小の詩」から「俳句」に決まる。また、空欄Eを含む一文の冒頭に「点的論理によって支配されていることば」とあることから、点的論理の説明がされている箇所を中心に探す。3つ前の段落に「情感を伝えることができるのは……点を結び」とある。空欄補充の問題は頻出なので、試験本番で正解できるように過去問題で練習しておこう。

問五

内容合致の問題。オ「親密な関係であれば」という選択肢の表記から、それが説明されている空欄A～Cを含む段落を解答の範囲として見当をつける。その内容と照合して判断する。本文から該当箇所を特定して、丁寧に選択肢をチェックすれば正確に正誤判断ができる。